

日常診療を変えるエビデンスを皆様へ。

2023年7月 vol.1

日頃より「今日の臨床サポート」をご愛顧いただき、ありがとうございます。

2023年5月に改訂された臨床レビューの中から、日常診療に大きく影響を与えるようなエビデンスをご紹介します。

本態性高血圧症	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者高血圧のより厳格な血圧コントロール、代替塩を用いた減塩、デジタル療法、さらにアンジオテンシン受容体ネプリライシン阻害薬（ARNI）の有用性を示す新規エビデンスを加えた。 ・60-80歳の中国人高血圧患者を対象に行われたSTEP研究では、厳格な降圧治療群（収縮期血圧110-130 mmHg）において標準降圧治療群（収縮期血圧130-150 mmHg）に比べ、心血管イベントが低下していた一方、腎障害の有意な増加は認められなかった（Zhang W, et al. N Engl J Med. 2021 Sep 30;385(14):1268-1279.）。 ・塩分制限指導には代替塩の使用が有効である可能性がある。脳卒中既往または60歳以上の高血圧を有する患者を対象に代替塩を用いた介入試験において、代替塩を使用した群では通常の塩を使用する群と比較して脳卒中発生率が14%低下。主要心血管イベントおよび総死亡も有意に低下した。高K血症による重篤な有害事象の発生率には有意な差はなかった（Neal B, et al. N Engl J Med. 2021 Sep 16;385(12):1067-1077.）。 ・通常的生活習慣指導に加え、スマートフォンの高血圧治療用アプリ（HERBシステム）を用いることで、日本人本態性高血圧患者において有意な降圧効果が認められた（Kario K, et al. Eur Heart J. 2021 Oct 21;42(40):4111-4122.）。 ・ARNIのサクビトリルバルサルタンの国内第Ⅲ相試験が、軽症または中等症の日本人本態性高血圧症患者1161例を対象に行われた（Rakugi H, et al. Hypertens Res. 2022 May;45(5):824-833.）。8週時の平均座位収縮期血圧のベースラインからの変化量は、サクビトリルバルサルタン200 mg群でオルメサルタン20 mg群に比べ有意に低下した。24時間持続的な降圧効果を示した。
口唇ヘルペス、ヘルペス性歯肉口内炎・咽頭炎	<ul style="list-style-type: none"> ・最新の情報に基づいてコンテンツを見直し、改訂を行った。 ・免疫不全の患者においてHSVがアシクロビルに対して耐性を示す場合には、バラシクロビルやファムシクロビルも効果が期待できないため、ホスカルネットもしくはシドフォビルによる治療を検討する。免疫が正常な患者ではHSV-1はアシクロビル等のウイルスに対して耐性を示すことはまれであるが（1%以下）、HIVや移植患者等免疫不全患者では抗ウイルス薬に対して耐性を示すことがある（Frobert E, et al. Antiviral Res. 2014 Nov;111:36-41.）。免疫不全患者のHSVによる皮膚粘膜感染で7-10日間の標準治療を行っても改善が見られない場合は耐性を疑う。 ・造血幹細胞移植後早期から好中球生着期にはHSVの再活性化が、好中球性着後から数年間はVZVの再活性化が問題となるため、宿主の状態に応じた予防策が重要である。 ・HSV抗体陽性の同種移植患者では、再活性化予防のため、移植前から好中球生着または口内炎が軽快するまでアシクロビルまたはバラシクロビルによる予防を行うことを推奨する（Tomblyn M, et al. Biol Blood Marrow Transplant. 2009 Oct;15(10):1143-238.）。 ・アシクロビルとバラシクロビルは、「造血幹細胞移植における単純ヘルペスウイルス感染症の発症抑制」として国内で保険適応がある。

『今日の臨床サポート』とは

エビデンスに基づく日本語によるリファレンスツールです。約1,400の疾患・症状概要、診断・治療方針などをご覧になることができます。ジェネリックを含む薬剤情報、疾患・症状の患者向け説明資料、インターネット版ではPubMedへのリンクもご用意しています。

QRコードまたはURLからアクセスできます。イントラ版をご契約の施設では、院内端末からログインなしでご覧になることができます。



<https://clinicalsup.jp/jpoc/>

ログインには、①ユーザー名、②パスワード、③施設コードが必要です。管理者の方にご確認ください。

